

内閣府の「満足度・生活の質に関する調査（二〇二四）」によると、生活満足度を判断する上で重視される事項には年齢層ごとに違いがあるものの、「家計と資産」「健康状態」「生活の楽しさ・面白さ」ほどの年齢層でも重視していることが分かりました。

特に「家計と資産」は多くの人にとって関心が高い分野であることがうかがえました。お金は私たちの生活に欠かせないものであり、多くの人がそれを得るために日々努力しています。しかし、「お金があれば幸せになれるのか」という問いに対しては、簡単に答えを出すことは難しいでしょう。

ただ、お金には人生を豊かにする力があるのは間違いありません。衣食住をはじめ、教育、医療、娯楽など、何をするにしてもお金が必要です。お金があれば、多くの面で生活の質を向上させることができます。

例えば、旅行に行つて知らない土地の文化に触れたり、郷土料理を楽しんだりすることは、人生の喜びの一つと言えるのではないのでしょうか。また、お金があることで将来の不安を軽減し、精神的な安定を得ることもできます。

しかし、苦勞せずに利益を得てしまうと、身持ちを崩す可能性もあります。また、お金を追い求めるあまり、本来大切にすべきものを見失ってしまうこともあります。

もし、家族との大切な時間を犠牲にしてまでお金を増やすことが目的になってしまふと、心の満足を得られなくなる場合があります。私たちが本当に大切にしなければ



お金と心の調和をはかり 豊かな人生を築こう

ならないのは、「心の在り方」です。お金にまつわる事件が後を絶たないのも、心が欲に支配されているからです。お金の使い道や運用方法は時代とともに変わっても、向き合い方や付き合い方は変わりません。

心の在り方ひとつで、同じ現実でも見え方が変わり、選ぶ道も変わっていきます。だからこそ、日々の暮らしの中で自分の心の持ちようが大切であり、良い方向へ導く努力をしていかなければなりません。

お金がなくても、喜んで生活をしていれば心は豊かになり、幸せを感じることができます。倫理研究所の創設者である丸山敏雄は、お金に対する「心の在り方」について次のように述べています。

「お金ができたときと有頂天になると、たちまちスカンピンになる、無い時にすっかり元気を落としてしまう、そんな人はもう金を駆使する力がなくなる。それで、集まるべきお金が入って来ない。」

「雨が降っても日照りでも、あるときもない時も、いつもにこにこいたします」というのが、金銭に対する心持ちです、不動心です。

『サラリーマンと経営者の心得』

お金そのものが幸せを生むわけではなく、それを使う人の心が大切です。自分や周囲の人の幸福を考えながらお金を使うことで、より豊かで充実した人生を送ることができます。お金の使い方は次第で、人生の質は大きく変わります。心の在り方を見つめ直し、正しい価値観を持ちたいものです。